

単元	1 ひみつの言葉を引き出そう	4月(1時間…A1)
目標	「ひみつの言葉」を引き出すために、話題を決めて話すことができる。	
話し活動	友達から「ひみつの言葉」を引き出すために、話題を投げかける活動	
評価 規準	(①知・技)言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((1)ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ) (③主体的態度)進んで目的や意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出そうとしている。	
○気持ちや様子を表す言葉をカードに書き、グループでカードを交換する。 ○グループのメンバーが、カードを持っている一人が、その言葉を言うように話題を投げかける。		
【備考】 ○気持ちを表す言葉は、P292を参照するとよい。		

単元	2 詩を楽しもう (『かんがえるのって おもしろい』『続けてみよう』)	4月(1時間…C1)
目標	詩を音読して感じたことを伝え合い、自分の考えを広げることができる。	
話し活動	詩を音読し、感想を伝え合う活動	
評価 規準	(①知・技)声の大きさや抑揚を工夫したり、七五調のリズムに注意したりしながら、詩を音読している。((1)ケ) (②思・判・表)「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) (③主体的態度)進んで感想を共有することで自分の考えを広げ、今までの学習を生かして、音読しようとしている。	
○詩を音読して感じたことをノートに書き、友達と伝え合う。		
【備考】 ○ノートに記録したことについて、授業や朝の会等で紹介する場を設定するなどし、記録の習慣化を図れるとよい。		

単元	3 自己紹介を楽しもう (『名前を使って自己紹介』)	4月(1時間…C1)
目標	自分の名前で作った「あいうえお作文」を伝え合い、自分の作文のよさを見付けることができる。	
話し活動	自分の名前を使った「あいうえお作文」で、自己紹介をする活動	
評価 規準	(①知・技)文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ) (②思・判・表)「読むこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(C(1)カ) (③主体的態度)積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。	
○自分の名前で「あいうえお作文」を作り、友達と伝え合う。		

単元	4 登場人物同士の関係を捉え、感想を伝え合おう（『銀色の裏地』）		4月（5時間…C5）
目標	叙述を基に登場人物の相互関係や心情について捉えることができる。		
議題	物語を読んで感じたことや考えたことを聞き合う活動		
評価 規準	(①知・技) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) (③主体的態度) 進んで、登場人物の相互関係や心情について描写を基に捉え、学習課題に沿って、感想を伝え合おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか む	1	○『銀色の裏地』を読み、印象的な場面やその理由を発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 登場人物の心情や関係を捉え、感想を伝え合おう	○登場人物同士の関係に着目できるよう、登場人物の心情が表れた印象的な場面や叙述を話し合う活動を設定する。
ふ か め る	1	○叙述を根拠にしなが、理緒と他の人物の関係の変化についての互いの考えを聞き合う。	○叙述から心情を捉えられるよう、「情景描写」「行動描写」「心理描写」「会話文」を提示し、それらを指摘しながら考えを聞き合う時間を十分に設定する。
	1	○理緒と他の人物の関係が変化したきっかけについて、叙述を根拠に話し合う。	○自分の考えを明確に伝えられるよう、具体的な「情景描写」「行動描写」「心理描写」「会話文」にふれて、自分の考えや感じたことを話し合う機会を設定する。
ふ り か え る	1	○理緒と他の人物の関係の変化について、自分の考えや感じたことを伝え合い、学習を振り返る。	○叙述同士を関わらせて自分の考えを明確に伝えられるように、感想の根拠を複数の叙述から挙げながら話し合う機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇叙述に着目しながら、物語の印象的な場面を記述している。
<ノート③>

◇情景描写、行動描写、心理描写、会話文にふれて、春花と勇太の関係の変化について記述している。
<ノート②>

◇情景描写、行動描写、心理描写、会話文にふれて、自分の考えや感じたことを発言したり記述したりしている。
<ノート②>

◇情景描写、行動描写、心理描写、会話文に関わる複数の語句と語句とを関連付けながら、物語の感想を記述している。
<ノート①>

◇6割以上の問題について、正答を出している。

〈読書〉(『図書館を使いこなそう』)		4月(1時間…知・技1)
目標	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ) (③主体的態度) 積極的に、学校図書館の仕組みを知って読書に親しみ、学習課題に沿って、本を探し、記録カードに書こうとしている。	
○日本十進分類法について知り、テーマやキーワードを決めて本を探す。		
【備考】 ○図書室の司書と事前に打合せをし、TTで授業を行うようにする。		

〈言葉の学習〉(『漢字の成り立ち』)		4月(2時間…知・技2)
目標	漢字の由来、特質などについて理解することができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) (③主体的態度) 進んで漢字の成り立ちについて関心を持ち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
○象形文字、指事文字、会意文字、形声文字について知り、知っている漢字から4種類に当てはまるものを探したり、漢字辞典で漢字の成り立ちを調べたりする。		
【備考】 ○漢字辞典は、個人持ちのものを持参して用いる。5年ワークスペース・図書室にあるものを使ってもよい。		

〈季節の言葉〉(『春の空』)		4月(2時間…B2)
目標	親しみやすい古文を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、春らしいものや様子を文章に書こうとしている。	
○春の好きなところを伝え合ったり、枕草子や俳句を音読したりし、感じたことを伝え合う。 ○春らしいものや様子を短い文章に書き、友達と伝え合う。		
【備考】 ○短い文章を書く際には、A5版程度の用紙を用意し、書いたものを掲示するとよい。		

単元	5 友達のことをインタビューで聞いてみよう (『きいて、きいて、きいてみよう』)			4・5月(6時間…A6)
目標	話し手の意図を捉えながら聞き、考えをまとめることができる。			
議題	友達にインタビューをし、「友達紹介カード」をつくる活動			
評価 規準	(①知・技) 話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。((1)イ) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) (③主体的態度) 粘り強く目的や意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって、インタビューをしたり、報告し合ったりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○友達について興味のあることや知りたいことを発表し合い、学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学習課題 役割を決めてインタビューをし合い、「友達紹介カード」をつくらう </div>	○友達について、知っていることや知らないことを発表し合うよう促したり、試しのインタビューをする機会を設定したりする。	◇友達について興味のあることや知りたいことを発表したり、インタビューしている。 <発表・ノート③>
ふ か め る	1	○「きき手」「話し手」「記録者」それぞれのきき方を話し合う。	○異なった立場から「きくこと」の活動を行えるよう、3人程度のグループを編制し、「きき手」「話し手」「記録者」に分かれてインタビューを行う機会を設定する。	◇役割ごとの「きくこと」の特徴を、発表したり表にまとめたりしている。 <発表・ノート②>
	1	○グループを編制し、インタビューをしたいことを考える。	○友達の人柄や考え方を引き出すような話題や質問を行えるよう、インタビューメモを作成する機会を設定する。	◇友達にききたいことを適切な書き言葉でインタビューメモにまとめている。 <インタビューメモ①>
	1	○役割に沿ってインタビューをする。	○きいたことを記録できるよう、話し手の回答内容や自分の感想をまとめられる学習プリントを用意する。	◇役割に沿って質問したり、答えたり、記録したりしている。 <インタビュー(録画)・学習プリント②>
	1	○インタビューをした内容を基に、「友達紹介カード」を作る。	○インタビューを生かして「友達紹介カード」を作成できるよう、「友達紹介カード」のモデルを提示したり、カードの用紙を用意したりする。	◇インタビューできいたことや、それに対する自分の感想を交えて、「友達紹介カード」をまとめている。 <友達紹介カード②>
ふ り か え る	1	○「友達紹介カード」づくりを通して気付いたことを発表し合う。	○インタビューの成果を捉えられるよう、「友達紹介カード」を掲示し、自由に読み合ったり、感想を伝え合ったりする機会を設定する。	◇「友達紹介カード」から知った友達の情報や、インタビューをして気付いたことなどを記述している。 <ノート③>

〈言葉の学習〉(『漢字の広場①』)		5月(1時間…B1)
目標	第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、本の場所や図書館の使い方などについて説明する文章を書く。		

単元	6 文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう(『見立てる』『言葉の意味が分かること』『(情報)原因と結果』)	5月(8時間…知・技1, C7)		
目標	目的に応じて要旨を捉えたり、筆者の考え方や文章の書き方について、自分の考えを明確にしたりしながら読むことができる。			
話し動	筆者の考えに対する自分の考えを伝え合う活動			
評価規準	(①知・技) 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) (③主体的態度) 粘り強く文章全体の構成を捉えて要約し、学習課題に沿って、筆者の考えに対する自分の考えを発表しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『見立てる』を読んで筆者の考えを捉え、自分の考えたことを伝え合って、学習課題をつかむ。 学習課題 構成に気を付けて要旨を捉え、考えたことを伝え合おう	○考えと事例の関係を捉えられるよう、段落を比べて考えと事例に分類する機会を設定する。	◇「初め」の考えについて「中」で事例を示し、「終わり」で考えをまとめるという構成について、発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1	○『言葉の意味が分かること』を読み、筆者の考えを捉える。	○考えと事例の関係を基に文章の構成を捉えられるよう、『見立てる』の構成を参考に、文章の構成を話し合う機会を設定する。	◇「初め」「終わり」から筆者の考えを捉えている。 <発言・ノート②>
	2	○「中」の部分から、筆者の考えの基となる事例を探す。	○筆者の論の展開を捉えられるよう、「中」の部分で、「コップ」や「ふむ」等の具体的な例に着目して段落のまとまりに分ける機会を設定する。	◇具体的な例に着目して、事例をまとめている。 <ノート①>
	1	○文章の要旨を捉える。	○要旨を端的にまとめられるよう、150字程度の下書き用紙を用意する。	◇「終わり」の2段落の言葉を用い、要旨を150字程度にまとめている。 <学習プリント②>
	1	○筆者の考えや説明の仕方に対する自分の考えをまとめる。	○複数の視点から考えをもてるよう、考えの視点「共感・納得」「疑問」を提示する。	◇自分の考えを記述している。 <ノート②>
かふえり	1	○まとめた考えを伝え合い、学習を振り返る。	○まとめた考えと、筆者の考えや事例の示し方との関連を意識して聞き合えるよう、本文や要旨の関連箇所を指し示しながら考えを伝え合う活動を設定する。	◇本文や要旨の関連箇所を指し示しながら自分の考えを記述している。 <ノート③>
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について正答を出している。 <テスト②>

【備考】
○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。

〈言葉の学習〉(『和語・漢語・外来語』)		5月(1時間…知・技1)
目標	語句の由来などに関心をもつことができる。	
評価 規準	(①知・技) 語句の由来などに関心をもっている。((1)ウ) 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。((1)ウ) (③主体的態度) 進んで和語・漢語・外来語の由来などに関心もち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
○和語・漢語・外来語の違いから受ける印象を話し合い、それぞれの特徴を知る。 ○漢語と和語による言葉の意味の違いを話し合い、身の回りから和語・漢語・外来語を探す。		

単元	7 言葉をよりすぐって俳句を作ろう(『日常を十七音で』)	6月(3時間…B3)		
目標	表現を工夫して俳句を作ることができる。			
議題	日常生活について俳句で表す活動			
評価 規準	(①知・技) 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) (②思・判・表) 「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 粘り強く、構成や書き表し方に着目して、文言を整え、学習課題に沿って俳句を作ろうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○P66に例示された俳句の感想や表現の特徴について話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 表現を工夫して俳句を作ろう	○表現の工夫による印象の違いに気付けるよう、例示の俳句の表現を別のものに置き換え、比較する機会を設定する。	◇ 表現の工夫により伝わる印象に違いが出ることを記述している。 <ノート③>
ふかめる	1	○俳句を作る。	○表現を工夫を意識できるよう、比喻や反復を用いた俳句や、季節ごとの季語を例示する。	◇ 季語を選んだり、語順を工夫したりして、用いて俳句を作っている。 <ノート②>
かふえり	1	○俳句を友達と読み合い、学習を振り返る。	○多くの作品を読んだり感想を伝え合ったりできるよう、ペアを繰り返し組みながら互いの俳句を読み合う機会を設定する。	◇ 表現の工夫に関わって、感想を記述している。 <ノート①>
【備考】 ○俳句を書く際はA5版程度の用紙を用意し、完成した作品を廊下等に掲示するとよい。 ○R04, R03は、上毛新聞のジュニア俳壇に投稿した。				

〈言葉の学習〉(『古典の世界(一)』)		6月(1時間…知・技1)
目標	古文を音読し、言葉の響きやリズムに親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) (③主体的態度) 進んで昔の人のものの見方や感じ方について知り、学習課題に沿って、古文を音読しようとしている。	
○挿絵を見て気付いたことや古典の時代について知っていることを話し合い、4つの作品を繰り返し音読する。		
【備考】 ○言葉の響きやリズムに慣れるよう、授業の初めや朝の会、家庭学習等の時間を用いて、音読する機会を繰り返し設ける。 ○図書室から古典の本を借りて、紹介するとよい。		

〈情報〉(『目的に応じて引用するとき』)		6月(2時間…B2)
目標	情報と情報の関係付けの仕方を理解し、書き表し方を工夫することができる。	
評価 規準	(①知・技) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、文章を書く際にそれらを用いて書き表している。(2)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) (③主体的態度) 進んで情報と情報との関係付けのしかたを理解し、学習課題に沿って、引用カードを書こうとしている。	
○P76の挿絵を基に調べ学習で困った経験を話し合い、情報を書き留めるときに気を付けることを確かめる。 ○P77の文章と引用カードを基に、目的に合わせた引用の仕方について話し合い、引用カードを書く。		

単元	8 調べたことを正確に報告しよう (『みんなが使いやすいデザイン』)		6月(8時間…B8)
目標	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。		
議題	ユニバーサルデザインについて調べたことを報告する文章を書く活動		
評価 規準	(①知・技)文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(①)カ) (②思・判・表)「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) (③主体的態度)粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか む	1	○ユニバーサルデザインや、報告文のモデルから気付いたことを話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 ユニバーサルデザインについて、調べたことを正確に報告する文章を書こう	○調べたことを正確に書くという報告文の特徴に気付くよう、P82の報告文のモデルと通常書く作文の違いを話し合う機会を設定する。
ふ か め る	1	○報告文の形式や調べる方法について理解する。	○知りたいことに合わせた調べ方を選択できるよう、P80に例示された調べ方の長所や短所を話し合う機会を設定する。
	2	○報告する内容を調べる。	○知りたいことに合わせて調べられるよう、メディアルームでの資料調べ、現地調査、詳しい人へのインタビュー等を選んで行える時間を設定する。
	1	○報告文の構成を考える。	○伝える目的に合わせて情報を選んだり並べたりできるよう、報告文の構成を示した構成メモを用意する。
	2	○報告文を書く。	○正確に伝わる書き方を意識できるよう、P81の観点を参考にして、ペアやグループでアドバイスし合う機会を設定する。
か ふ え り る	1	○書いた報告文を読み合い、分かりやすいところを伝え合う。	○正確に伝わる報告文を書けたことを実感できるよう、読んだ報告文の分かりやすいところをメモに書いて書いた人に渡す機会を設定する。
【備考】 ○報告文を書く際には、タブレットでワープロ入力を行うことで、修正の繰り返しが容易になる。 ○完成した報告文は、冊子にしてワークスペースや図書室に展示するとよい。 ○R04は、社会科と関連させ、気になる都道府県について調べた。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇報告文の特徴について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇**報告文の形式や内容の特徴、それぞれの調べ方の長所と短所を記述している。**<ロイロノート①>

◇知りたいことに合わせた調べ方を選んで調べている。
<行動・ロイロノート②>

◇構成に合わせてメモを書いている。
<構成メモ②>

◇構成に合わせながら、調べたことと自分の考えを区別し、筋道の通った文章を書いている。
<ロイロノートの報告文②>

◇友達の報告文を読み、分かりやすいところを記述している。
<メモ③>

〈言葉の学習〉(『同じ読み方の漢字』)		7月(3時間…知・技3)
目標	第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) (③主体的態度) 進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心を持ち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
○「熱い」「暑い」「厚い」の違いを話し合い、同じ訓をもつ漢字でも意味や使い方に違いがあることを理解する。 ○「公園」と「公演」、「週間」と「週刊」の違いを話し合い、同じ音をもつ熟語の意味を国語辞典で調べる。		
○1学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

単元	9 ○○さんの本を紹介します(『作家で広げるわたしたちの読書』『モモ』)	7月(5時間…C5)		
目標	読書に親しみ、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。			
議題	作家を中心に本を紹介する活動			
評価 規準	(①知・技) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) (③主体的態度) 進んで日常的に読書に親しみ、学習課題に沿って、本の魅力を伝え合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○日頃の本の選び方について話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 作家に着目して本を紹介し合おう	○作家に着目して本を選ぶことに興味をもてるよう、特定の作者の複数の作品を用意して提示する。	◇作家に着目して本を選ぶことについて記述している。 <ノート③>
ふ か め る	1 2	○作家に着目して本を探す。 ○紹介カードを書く。	○作家の複数の作品にふれられるよう、図書室で本を探す時間を確保する。 ○作家や作品の魅力にふれて書けるよう、作品の共通点をキャッチコピーとして書く欄を設けた紹介カード用紙を用意する。	◇複数の作品を比べ、作品の特徴を記述している。 <ノート②> ◇作家や作品の魅力にふれて、複数の作品の紹介を書いている。 <紹介カード②>
ふ り か え る	1	○書いた紹介カードを読み合い、気付いたことを伝え合う。	○読書の効果について考えをもつことができるよう、友達の紹介カードから初めて知ったことや興味をもったことを伝え合う機会を設定する。	◇読書が自分の考えを広げることに関与することによって、気付いたことを記述している。 <ノート①>
【備考】 ○書いた紹介カードはワークスペースや図書室に展示するとよい。				

〈季節の言葉〉(『夏の夜』)		8月(1時間…B1)
目標	古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しみ、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。	
評価 規準	(①知・技) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。	
○『枕草子』や俳句を音読し、夏らしいものや様子を文章に書き、友達と伝え合う。		
【備考】 ○短い文章を書く際には、A5版程度の用紙を用意し、書いたものを掲示するとよい。(R04はロイロノートの提出箱を使用)		

単元	10 詩を味わおう(『かぼちゃのつるが』『われは草なり』)	9月(2時間…C2)
目標	表現の工夫に気を付けて詩を読み、感想を共有して自分の考えを広げることができる。	
議題	詩を音読し、感じたことや考えたことを伝え合う活動	
評価 規準	(①知・技) 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) (③主体的態度) 進んで表現の工夫について考え、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを伝えようとしている。	
○詩を音読し、気付いたことや感じたこと、考えたことなどをノートに書き、伝え合う。		

単元	11 2つの立場から考えよう(『どちらを選びますか』)	9月(2時間…A2)
目標	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	
議題	2つの立場の違いを比べて話し合う活動	
評価 規準	(①知・技) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) (③主体的態度) 進んで互いの立場を明確にし、学習計画に沿って、討論しようとしている。	
○2つの立場の理由をそれぞれ考える。 ○2つの立場に分かれ、自分たちの立場の理由を話し合う。		

単元	12 新聞記事のひみつを見付けよう (『新聞を読もう』)			9月 (4時間…C4)
目標	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。			
活動	新聞を読んで気付いたことを話し合う活動			
評価 規準	(①知・技) 文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(C(1)カ) (②思・判・表) 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) (③主体的態度) 進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って、新聞記事を読もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○新聞の一面の特徴について話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 新聞記事の構成の秘密を見付けよう	○新聞記事の構成を想起できるよう、実際の新聞記事をモデルとして提示する。	◇「見出し」「リード文」「本文」等に触れて、新聞記事の構成について考えたことを記述している。 <ノート①>
ふ か め る	1	○同じ出来事を伝える2つの記事を比べ読みし、違いやその理由を話し合う。	○立場による伝え方の違いに着目できるよう、同じ出来事を伝える、「対象となる読者」「用いられている固有名詞」の異なる2つの新聞記事を用意する。	◇立場に応じて伝える情報を変えていることを記述している。 <ノート②>
ふ り か え る	2	○興味をもった記事について、構成に着目して読み取ったことや感想をまとめ、発表し合う。	○構成の特徴をふまえて新聞を読めるよう、興味をもった記事について、「見出し」「リード文」「本文」等に着目して読み取った内容や、それに対する感想をまとめる機会を設定する。	◇記事の構成に着目して読み取った内容や感想を記述している。 <ノート③>
【備考】 ○新聞を購読していない家庭も多い。「ふりかえる」過程の前に、新聞紙を集めておくといよい。				

〈言葉の学習〉(『敬語』)				9月 (2時間…知・技2)
目標	日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。			
評価 規準	(①知・技) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(C(1)キ) (③主体的態度) 進んで日常よく使われる敬語について関心をもち、学習課題に沿って、使い方を理解し、慣れようとしている。			
○「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」それぞれの特徴を捉える。 ○「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」を用いて、話をしたり文を書いたりする。				

単元	13 物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合おう (『たずねびと』)		9月 (7時間…C7)
目標	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。		
議題	物語の全体像から考えたことを伝え合う活動		
評価規準	(①知・技) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) (③主体的態度) 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○範読を聞き、初発の感想を伝え合い、学習課題をつかむ。 学習課題 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう	○物語の全体像に対する問題意識をもてるよう、「出来事(内容)」と「言葉(表現)」を視点にして物語について話し合う機会を設定する。
ふかめる	2	○物語を読んで感想をもつ。	○綾の心情やその変化を具体的に想像できるよう、根拠となる叙述に線を引いたり友達と音読を聴き合う機会を設定する。
	2	○グループで感想を伝え合う。	○友達と感想を伝え合い、考えを深めることができるよう、感想の共通点や相違点を話し合う機会を設定する。
ふりかえる	1	○全体で感想を伝え合う。	○グループや全体で感想を伝え合ったことで、自分の考えに変化があったことを自覚できるよう、初発の感想とその後の感想との違いを見付ける機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

〈言葉の学習〉(『漢字の広場②』)		9月 (1時間…B1)
目標	第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(C(1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに担当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、登山家の半生を文章にし、友達と伝え合う。		

〈言葉の学習〉(『熟語の読み方』)		10月(1時間…知・技1)
目標	語句の由来などに関心を持ち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 語句の由来などに関心を持ち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。((3)ウ) (③主体的態度) 進んで漢字の読み方や使い方について関心を持ち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
<p>○同じ漢字でも複数の音をもつものがあることを理解し、P124の問題を解く。 ○言葉全体をひとまとめにして、特別な読み方をするものがあることを理解し、P125の熟語を読む。</p>		

〈季節の言葉〉(『秋の夕暮れ』)		10月(1時間…B1)
目標	古文を音読し、言葉の響きやリズムに親しみ、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。	
<p>○『枕草子』や俳句を音読し、秋らしいものや様子を文章に書き、友達と伝え合う。</p>		

単元	14 たがいの立場を明確にして話し合おう (『よりよい学校生活のために』『意見が対立したときは』)		10月(6時間…A6)
目標	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。		
議題	よりよい学校生活にするための課題をグループで話し合う活動		
評価 規準	(①知・技) 情報と情報との関係付けのしかた, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において, 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) (③主体的態度) 粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら, 学習の見通しをもって, 身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか か む	1	○学校生活がよりよくなるために提案したいことや解決したいことを話し合い, 学習課題をつかむ。 学習課題 たがいの立場を明確にして, 話し合おう	○多様な視点から議題を選ぶことができるよう, 「学校外のこと」「自分の行動」「他の人の行動」にグループ分けして板書する。
ふ か め る	1 1 2	○話し合いの仕方を確かめ, 進行計画を立てる。 ○議題について, 自分の考えをもつ。 ○計画に沿ってグループで話し合う。	○話し合いへの見通しをもてるよう, グループ内での役割や進め方, 時間配分を話し合う活動を設定する。 ○課題に対して多面的に考えられるよう, 複数の情報を用意する。 ○互いの立場を明確にできるよう, 「現状と問題点」「解決方法」「理由」を整理しながらメモを取ることができるマトリクスを用意する。
ふ り か え る	1	○学習を振り返る。	○計画的に話し合えたことを実感できるよう, 話し合いの結果と話し合い方のよかったところをグループごとに発表する機会を設定する。
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」			
			◇学校生活をよくするために議題にしたいことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
			◇議題にしたいことについて, 自分の考えを発言している。 <発言②>
			◇複数の立場に立って, 考えの理由を記述している。 <ノート②>
			◇「現状と問題点」「解決方法」「理由」に分けて発言を記録している。 <記述①>
			◇話し合いのよかったところやこれからの生活に生かしたいことを記述している。 <ノート③>

〈言葉の学習〉(『漢字の広場③』)		10月(1時間…B1)
目標	第4学年までに担当されている漢字を用い, 文や文章を整えて書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに担当されている漢字を書き, 文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において, 文の構成や書き表し方などに着目して, 文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに担当されている漢字を書き, 学習課題に沿って, 文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て, 各教科での学習や学校生活について文章を書き, 友達と伝え合う。		

単元	15 資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう (『固有種が教えてくれること』『統計資料の読み方』『自然環境を守るために』) 10・11月(11時間…知・技1B3C7)		
目標	文章と図表などを結び付けながら文章を読んだり、自分の考えを文章にしたりすることができる。		
議題	グラフや表を用いて自分の考えを文章にして伝える活動		
評価規準	(①知・技) 文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(C(1)カ) 情報と情報との関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(C(2)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) (②思・判・表) 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) (③主体的態度) 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫を生かして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	社会 1	・資料を用いた試しの文章を書く。 (テーマ例)「日本の食糧自給率を上げるべきか」 ○『固有種が教えてくれること』を読み、書き方の特徴を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 資料を用いた文章の効果を考え、生かして書こう	○資料と文章のつながりに着目できるよう、資料とそれに関連する本文の一部を拡大して提示する。
ふかめる1	1 2 1	○構成をふまえて『固有種が教えてくれること』の要旨をつかむ。 ○文章を要約する。 ○資料を用いて文章を書くことの効果を話し合う。	○文章の構成と要旨との関係に気付けるよう、「はじめ」と「終わり」のみを抽出したりライト文を提示する。 ○文章の展開をおおまかに捉えられるよう、「中」を2つに分けて見出しを付ける機会を設定する。 ○文章と資料のつながりを詳しく捉えられるよう、地図、写真、グラフのそれぞれを用いた時の伝わる内容や伝わり方の違いを話し合う機会を提示する。
ふかめる2	2 2	○文章の構成を考える。 ○資料を用いて文章を書く。	○意見と資料の結びつきについて試行錯誤できるよう、児童が自由に使用できる資料をタブレット内に用意する。 ○意見と資料の関係を明確にして構成を考えられるよう、考えと資料を並列して構成メモを記述できるワークシートを用意する。 ○資料と文章を組み合わせて書き進められるよう、ワープロソフトを利用できるタブレットとキーボードを用意する
ふりかえる	1 1	○書いた文章を読み合い、意見や感想を伝え合う。 ○まとめテストを行う。	○文章に対する意見や感想を複数得られるよう、付箋を用意する。
【備考】 ○R03は、社会科と連携し「日本の食糧自給率を上げるべきか」について、R04は、「図書の貸出数」について書いた。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇資料を用いることの効果に関わって、課題について発言したり記述したりしている。
 <発言・ノート③>

◇「はじめ」と「終わり」を短くまとめて要旨を書いている。
 <発言・ノート②C>

◇「中」を「日本列島のできたころ」と「現状」に分けて捉えている。
 <発言・ノート②C>

◇資料と対応する文章の部分や、読み取れる内容について記述している。
 <ノート②C>

◇意見を支えるのに適した資料を取り出している。
 <学習シート①>

◇「初め」「終わり」に意見、「中」に資料から読み取れることと考えを書いている。
 <構成メモ②B>

◇資料と文章を組み合わせて文章を書いている。
 <文章②B>

◇友達の記事に対して、自分の意見や、書き方のよいところを記述して伝えている。
 <付箋③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。
 <テスト②>

〈言葉の学習〉(『古典芸能の世界』)		11月(1時間…知・技1)
目標	古典について解説した文章を読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。	
評価 規準	(①知・技) 古典について解説した文章を読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。((3)イ) (③主体的態度) 進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って、古典について解説した文章を読もうとしている。	
○落語のしぐさを知り、落語について、友達と話し合ったり、調べたりする。(教科書に動画あり)		

〈言葉の学習〉(『カンジ博士の暗号解読』)		11月(2時間…知・技2)
目標	第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (③主体的態度) 進んで漢字の読み方について関心を持ち、これまでの学習を生かして、漸次書こうとしている。	
○漢字辞典や国語辞典を用いて暗号を解読する。		
○2学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

〈言葉の学習〉(『古典の世界(二)』)		11月(1時間…知・技1)
目標	漢文を音読し、言葉の響きやリズムに親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) (③主体的態度) 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、漢文を音読しようとしている。	
○現代語訳を基に大まかな意味を捉え、「論語」と漢詩を繰り返し音読する。		
【備考】 ○言葉の響きやリズムに慣れるよう、授業の初めや朝の会、家庭学習等の時間を用いて、音読する機会を繰り返し設ける。		

〈言葉の学習〉(『漢字の広場④』)		11月(1時間…B1)
目標	第4学年までに配当されている漢字を用い、文や文章を整えて書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、文の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、都道府県すごろくを完成させ、友達と伝え合う。		

単元	16 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう (『やなせたかし—アンパンマンの勇気』)		11・12月(6時間…C6)
目標	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。		
議題	伝記を読んで考えたことを伝え合う活動		
評価 規準	(①知・技) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) (③主体的態度) 積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、考えたことを交流しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○伝記を読んで学んだり参考になったりした経験や、本文を読んで心に残ったことを伝え合い、学習課題をつかむ。 学習課題 伝記を読んで、自分の生き方について考えたことを伝え合おう	○伝記に関わる具体的な経験を想起できるよう、メディアルームにある伝記を複数提示する。 ◇ 伝記を読んだ経験 を記述している。 <ノート③>
ふ か め る ・ ふ り か え る	2 2 1	○印象に残った表現や考えたことをメモしながら読む。 ○『やなせたかし—アンパンマンの勇気』を読み、考えたことを伝え合う。 ○まとめテストを行う。	○やなせたかしの生き方や考え方を捉えながら読めるよう、読む視点を提示する。 視点例：「大事にしていること」「他の人との違い」「筆者はどう思っているか」「自分はどうか」等 ○考えの具体性を高められるよう、上記の視点をを用いたマトリクスを用意する。 ◇ やなせたかしの生き方や考え方 に対して考えたことを書いている。 <ノート①> ◇「大事にしていること」「他の人との違い」「筆者はどう思っているか」「自分はどうか」等の視点に基づき、伝記を読んで考えたことを記述している。 <ノート②> ◇6割以上の問題について、 正答 を出している。 <テスト②>
【備考】 まとめテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

単元	17 読み手が納得する意見文を書こう (『あなたは、どう考える』『文章に説得力をもたせるには』)		12月(7時間…B7)	
目標	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。			
議題	生活に関わる意見を文章にまとめる活動			
評価 規準	(①知・技) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) (②思・判・表) 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) (③主体的態度) 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、意見文を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○普段の生活に関わる意見や、意見を文章にまとめることについて話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 主張と根拠のつながりをはっきりさせて、読み手が納得する意見文を書こう	○説得力のある意見文の特徴に着目できるよう、主張と根拠のつながりが明確かつ、反対の立場の考えを一度受け入れる要素を含む小学生の新聞投書を複数用意する。	◇意見文には書き手の主張と根拠が書かれていることや、反対の立場の考えを一度受け入れてから反論することに関わって、課題を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	1	○題材を決め、自分の主張をもつ。	○テーマについて多面的に捉えられるよう、複数の立場で主張とその根拠を整理することができるマトリクスを用意する。	◇体験や知識を基に、つながりのある主張と根拠を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート①>
	2	○文章の構成を決める。	○説得力のある構成を考え続けられるよう、主張と根拠を分けて記述するカードを用意する。 ○反論を取り入れる利点を理解できるよう、『文章に説得力をもたせるには』を読み、反論を取り入れたときの主張の伝わり方の違いを考える機会を設定する。	◇主張と根拠とがつながった文章の構成について、カードを組み替えながら考えている。 <カード②> ◇予想される反論と反論に対する考えについて、カードを組み替えながら考えている。<カード②>
	2	○意見文を書く。	○多面的な視点から文章を修正できるよう、「反対の立場」の視点で友達と文章に対するアドバイスをし合う機会を設定する。	◇反対の立場を受け入れる要素を含めた意見文を書いている。 <意見文②>
ふ り か え る	1	○意見文を読み合い、感想を伝え合う。	○説得力を判断しながら読むことができるよう、読む視点「主張と理由」、「根拠のつながり」を提示する。	◇説得力のある書き方にふれて感想を伝えている。 <発言③>
【備考】 ○繰り返し修正しながら文章を書き進められるよう、ワープロソフトを利用できるタブレットやPCを準備するとよい。				

〈言葉の学習〉(『方言と共通語』)		1月(2時間…知・技2)
目標	共通語と方言との違いを理解することができる。	
評価 規準	(①知・技) 共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ (③主体的態度) 進んで共通語と方言との違いに関心を持ち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
○方言と共通語について知り、身近な方言について知っていることを話し合う。 ○場面による方言の使われ方やその効果について話し合う。		
【備考】 ○群馬方言に関わるインターネットサイトを利用できる。 ・「医療人のための群馬弁講座」 http://jn1bpm.sakura.ne.jp/gunma/ 等 ○群馬方言カルタ(共愛学園前橋国際大学)というものがある。		

〈季節の言葉〉(『冬の朝』)		1月(1時間…B1)
目標	古文を音読し、言葉の響きやリズムに親しみ、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。	
評価 規準	(①知・技) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア (②思・判・表) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。	
○『枕草子』や俳句を音読し、冬らしいものや様子を文章に書き、友達と伝え合う。		

単元	18 詩の楽しみ方を見つけよう(『生活の中で詩を楽しもう』)	1月(1時間…C1)
目標	詩の表現の効果を考え読み、楽しむことができる。	
議題	気に入った詩を書き写して友達に伝える活動	
評価 規準	(①知・技) 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク (②思・判・表) 「読むこと」において、詩の表現の効果を考えている。(C(1)エ) (③主体的態度) 進んで詩の表現の効果を考え、学習課題に沿って、詩の楽しみ方を見つけようとしている。	
○教科書の詩を音読し、気に入ったものを写して友達に伝える。 ○詩集などから気に入った詩を選び、音読したり書き写したりし、友達に伝える。		
【備考】 ○図書館司書と連携し、図書館の詩集を集めて用いるとよい。		

〈言葉の学習〉(『漢字の広場⑤』)		1月(1時間…B1)
目標	第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第4学年までに担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに担当されている漢字を書き、学習課題に沿って、文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、駅からおばあちゃんの家までの道順を案内する文章を書き、友達と伝え合う。		

単元	19 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう(『想像力のスイッチを入れよう』)		1月(6時間…C6)	
目標	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。			
議題	メディアとの関わり方について文章にまとめ、友達と伝え合う活動			
評価規準	(①知・技) 文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) (③主体的態度) 積極的に意見や感想を共有して、自分の考えを広げ、学習課題に沿って、メディアとの関わり方について話し合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○これまでの自分とメディアとの関わりについて発表し合ったり、教材文を読んだりして、学習課題をつかむ。 学習課題 メディアとの関わり方について、自分の考えをまとめよう	○メディアが事実のすべての面を伝えていないことに気付けるよう、ニュースを伝える新聞記事等を用意し、ニュースの印象を伝え合う機会を設定する。	◇メディアの伝える情報の偏りに関わって、学習課題について記述している。 <ノート③>
ふかめる	1	○本文の文章構成を話し合う。	○段落の内容を手がかりに文章全体の構成を捉えられるよう、「事例」「意見」という観点を提示する。	◇教材文の三つのまとまりごとに簡単にまとめた内容について記述している。 <発言・ノート①>
	1	○事例と意見との関係を押さえながら、筆者の考えについて話し合う。	○表現の違いに着目しながら事例と意見との関係を捉えられるよう、「例えば」等の接続語や、「だろう」等の文末に着目して筆者の考えを見付ける機会を設定する。	◇それぞれの段落の事例とそれに対する筆者の意見に着目しながら、効果について記述している。 <発言・本文シート②>
	1	○メディアと自分との関わりについて、文章に書く。	○自分とメディアとの関わりについての体験を想起できるよう、「もっと読もう」を用いて、多様なメディアの特徴を提示する。	◇本文を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを文章にまとめている。 <文章②>
ふりかえる	1	○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。	○友達の書いた文章を基に、メディアについて考えたことを複数の友達と交流できるよう、3～4人のグループで伝え合い、考えの共通点や相違点を話し合う機会を設定する。	◇互いの文章の共通点や相違点を基に、メディアと自分との関わり方に触れて感想を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>

【備考】
 ○社会「情報を生かすわたしたち」との関連を図る。
 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。

〈言葉の学習〉(『複合語』)		2月(2時間…知・技2)
目標	語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) (③主体的態度) 進んで複合語の構成や変化について関心を持ち、学習課題に沿って、それらを理解しようとしている。	
○複合語の組合せを理解する。 ○教科書から、複合語を探し、友達と伝え合う。		

〈言葉の学習〉(『言葉を使い分けよう』)		2月(2時間…知・技1B1)
目標	目的や意図に応じて、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら語や語句を使い、文章を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。(B(1)ウ) (③主体的態度) 積極的に、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って、手紙を書こうとしている。	
○内容や言葉は正しいのに、相手に理解してもらえなかったり、誤って受け取られたりした経験について話し合い、相手に応じた言葉の選び方について考える。 ○意図に応じた言葉の選び方について話し合い、手紙を書く。		

単元	20 読む人を意識して構成を考え、物語を書こう (『もう一つの物語』『言葉でスケッチ』)		2月(6時間…B6)	
目標	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。			
議題	物語の設定を一部変更して、もう一つの物語を創作する活動			
評価 規準	(①知・技) 話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(C1)カ (②思・判・表) 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) (③主体的態度) 粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。			
過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○これまでに読んだ物語を想起して、もう一つの物語を考え、学習課題をつかむ。 学習課題 「もしも」の世界を想像して、もう一つの物語を書こう	○書き換える事柄が変わると読み手の印象が変わることに気付くことができるよう、複数の相手や目的を例示する。	◇書き換える事柄が変わると読み手の印象が変わることに関わって、学習課題について発言したり記述したりしている。 <学習プリント③>
ふ か め る	事前 1 1 2	○書き換える物語を決める。 ○主な設定を書き出し、一部を変える。 ○もう一つの物語の構成を考える。 ○もう一つの物語を書く。	○物語の基本的な設定を捉えることができるよう、「登場人物」「時」「場」「主な出来事」「出来事の解決」を観点として提示する。 ○相手や目的に応じて構成を考えることができるよう、読み手に感じてほしいことを想起する機会を設定する。 ○登場人物の描写を工夫することができるよう、『言葉でスケッチ』を読み、修飾語の少ない文と多い文を比較する機会を設定する。	◇基本的な設定を書き出し、いくつかの項目を書き換えている。 <学習プリント②> ◇相手や目的に応じて、「主な出来事」「出来事の解決」を記述している。 <学習プリント①> ◇相手や目的に応じて、物語の構成や展開を考え、表現を工夫して文章を記述している。 <学習プリント②>
ふ り か え る	1	○もう一つの物語を読み合い、感想を伝える。	○相手や目的を明確にして文章を書くことに関わって達成感を得られるよう、「読んで感じたこと」を記述する学習プリントを用意する。	◇学習課題の解決状況に関わって、文章全体の構成や展開を考えて書くことに着目し、今後に生かせそうな文章の書き方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>

単元	21 事実と意見を区別して、提案しよう (『子ども未来科』で何をする』)			2月 (6時間…A6)
目標	言葉を使ってきたこれまでの経験から話題を決め、事実と感想、意見とを区別して話の構成を工夫しながら伝えることができる。			
議題	言葉の使い方についてプレゼンする活動			
評価 規準	(①知・技) 伝える相手に応じた適切な言葉遣いに気を付けている。 (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。 (③主体的態度) 積極的に事実と感想、意見とを区別しながら、学習課題に沿って話そうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○「言葉」の使い方について話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 言葉の使い方について、事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう	○言葉の使い方に対する問題意識をもつきっかけを得られるよう、これまでの生活経験を想起する機会を設定する。	◇生活経験を根拠に、学習課題に関わって、発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	1	○プレゼンの構成について話し合う。	○プレゼンを構成する内容の役割と順序をつかめるよう、事実と感想、意見とを区別して構成したプレゼンの例を提示する。	◇ 事実と感想、意見とを区別した構成の仕方について記述している。 <発言・ノート②>
	1	○調べたことを根拠にして、プレゼンの内容を決める。	○根拠として用いるための複数の情報を集めることができるよう、ロイロノートのアンケート機能を利用する。	◇複数の情報を結び付けて明らかになったことを根拠として、プレゼンの内容を決めている。 <発言・ノート②>
	2	○プレゼン資料を作成し、プレゼン練習を行う。	○根拠とする内容が伝わるプレゼンの練習ができるよう、ロイロノートで相手を意識して行えるよう、グループ同士で発表役と聞き役を交代しながらリハーサルを行う機会を設定する。	◇伝える相手に応じて、敬体と常体を適切に使い分けて話している。 <練習の様子(動画)①>
ふ り か え る	1	○プレゼン発表会を行い、学習を振り返る。	○今後のプレゼンに生かそうとする意識を高められるように、振り返りの視点として、「事実と感想、意見とを区別して話すことのよさ」を提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、進んで 事実と感想、意見とを区別して話を構成したこと に着目し、今後に生かせそうなプレゼンの仕方について記述している。 <発言・学習プリント③>
【備考】 ○児童が作成した発表資料は、提出箱に提出させ、教師がモニターに映すとよい。				

〈言葉の学習〉(『浦島太郎』)		3月(1時間…知・技1)
目標	仮名および漢字の由来, 特質などについて理解することができる。	
評価 規準	(①知・技) 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して, 昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) (③主体的態度) 進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り, 学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。	
○浦島太郎の結末を読み, 知っていることと違うことや自分にも気持ちが分かることを聞き合う。		

〈言葉の学習〉(『漢字の広場⑥』)		3月(2時間…知・技1, B1)
目標	第4学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使っている。(1)エ) (②思・判・表) 「書くこと」において, 文章全体の構成や書き表し方などに着目して, 文や文章を整えている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き, 学習課題に沿って, 文を書こうとしている。	
○絵を見て, 新聞記者の立場で出来事を報道する文章を書き, 友達と伝え合う。 ○3学期の言語事項について, まとめのテストをする。		

単元	22 すぐれた表現に着目して読み、物語のみりょくをまとめよう (『大造じいさんとガン』)			3月 (7時間…C7)
目標	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。			
議題	物語を読んで感じたことを伝え合う活動			
評価 規準	(①知・技) 文章を朗読している。(1)ケ) (②思・判・表) 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ) (③主体的態度) 粘り強く、表現の効果を考え、学習の見通しをもって、物語の魅力をまとめようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○『大造じいさんとガン』を読んで初発の感想や大造じいさんの心情が分かる表現を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 すぐれた表現に着目して読み、物語の魅力を伝え合おう	○心情が分かる表現に複数着目できるように、見付けた表現をペアで紹介し合う機会を設定する。	◇初発の感想や心情が分かる表現を発言したり、記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	1 2 1	○物語の山場を話し合う。 ○印象に残る表現について話し合う。 ○物語の魅力を文章にまとめる。 テーマ例：なぜこの物語は何十年も教科書にあり続けるのか。	○大造じいさんと残雪の関係が大きく変わったところを捉えられるよう、物語の初めと終わりでの両者の関係を比べて話し合う機会を設定する。 ○登場人物の心情を表す、すぐれた表現に着目できるように、観点として「行動描写」「情景描写」「心理描写」「会話文」を提示する。 ○想像したことを比べ、具体化できるように、互いの音読を聴き合う機会を設定する。 ○表現の工夫と結び付けて魅力をまとめられるよう、魅力をまとめた文のモデルを提示する。	◇両者の関係が大きく変わったところについて話したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇大造じいさんの心情が強く表れている表現について、発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇物語を朗読している。 <朗読①> ◇表現の工夫を結び付けて物語の魅力を文章にまとめている。 <文章②>
ふ り か え る	1 1	○表現の魅力についてまとめた文章を友達と読み合う。 ○まとめテストを行う。	○物語の展開と関連付けて心情を表す優れた表現を選べるよう、優れていると考える理由をグループで伝え合う機会を設定する。	◇具体的な叙述を理由にして、表現の魅力を記述している。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○朗読とは、一人一人が読者として思ったことや考えたことを踏まえ、聞き手に伝えようと表現力を高めて、文章を声に出して読むことである。				